

市歌・市民音頭
募集
締切 4月30日

南国市のよさと将来をたたえた歌詞で、こどもやおとしよりも親しまれ、広く市民の間に歌われる『市歌』と『市民音頭』を市民から募集します。

「市歌」 3節
入選作 1編=2万円
佳作 2編=各2千円

「市民音頭」 5節以内
入選作 1編=1万円
佳作 2編=各千円

送付先 市広報委員会

みんなの広場



遠くにある横断歩道をまわって利用するのはめんどうなもの。あ

高校生へのアンケートによれば

急がばまわれ

父と子はよく

話し合おう

この番組からいくつかの知恵をひろってみました。

で命をなくしたりケガをしたら、ナントばかけたことです。

(横断歩道)

「チエ」

わすか十三秒

という結果でした。たった十三秒

で命をなくしたりケガをしたら、

ナントばかけたことです。

『生活の知恵』

かテストした

ところ、平均

わすか十三秒

という結果でした。たった十三秒

で命をなくしたりケガをしたら、

ナントばかけたことです。

(横断歩道)

おかあさんご用心

(僕のとっさん)

父親と一日まったく話しをしないものが、男子で三十六賢、女子では二十七賢もいます。この年代は父親と子どもの関係がもっとも大切な時期だけに、父親としてはお子さんと積極的に話しあう努力が必要です。

一日のうちで子どもの交通事故のもっともおこりやすい時間は、午前十一時から十二時と、午後四時から六時だといわれています。これはおかあさんがたが食事の準備に追われている時間です。

(危険がいっぱい)

南国人物史

十市

琴平神社の由来

里改田の琴平山に鎮座する琴平神社は、大物主大神(大園主命と同一神)を祭神としており、もともとは五穀の神様であるが、いまでは海の守護神として名高く、一般に十市のこんびらさまでよく知られている。社伝によると、白鳳年間のむかしまで、土佐に黒田郡ほか数郡があった。琴平山(当時の臥竜山)の七里ばかり南の黒田郡にトッコウの峰というところに天智天皇の勅命によって、大和の三輪町の大神社(オオミワ)を勧請し、黒崎の宮を建立し、五穀御祭所、国民豊饒を祈願された。ところが、いまから千三百八十二年前の、白鳳十三年十月四日に大地震が起り、一大鳴動とともに黒田郡など数郡が陥没した。その余震は三林役に及んだといわれています。その時、黒崎の宮の金の御幣がヒラヒラと飛来して、浜の松の木にかかった。里人はこの御神徳を崇めて、その地に祠を建ててお祭

を勧請

し、黒崎の宮を建立し、五穀御祭所、国民豊饒を祈願された。

棟札の記録によると寛永十八年十月二日、寛文十一年十月、元禄十四年三月などのものがある。本社殿は寛永二年六月改築したもので、大工は後免の坂出伴左衛門、彫刻は鳥村三四郎、重九郎の作、絵馬堂には川田小童、藤原美光、宮田洞書、鳥村小盛などの絵馬がある。

①

琴平神社の由来

山城守 三守、作二尺 国房作 二尺、

は寿秀

ご神体は一尺余りの不動立像

宝物に銅鏡が三個、かぶと、剣

また、伝説によると讃岐の琴

平神社を勧請したものであると

いい、反対に、当社が本社で讃

岐が分家であるともいわれている。